

○委員長(出村 勝彦) 皆さん、お暑い中、御苦労さまでございます。

それでは、ただいまから北海道新幹線新函館駅(仮称)開業に関する調査特別委員会を開会いたします。

まず、本日の議題の確認ですが、お手元に配付のとおり進めたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(出村 勝彦) 異議がありませんので、そのように進めさせていただきます。

本日の調査に先立ちまして、先般、市・市議会合同要望におけるJR北海道に対する要望活動に、正副委員長が参加してまいりましたので、その概要を御報告させていただきます。

去る7月18日、理事者とともにJR北海道にお伺いし、北海道新幹線は、東北、北海道、首都圏との文化・経済的交流や新産業の創出など、さまざまな産業分野へ大きな波及効果をもたらし、北海道の活性化に極めて大きな役割を果たすものであり、平成27年度の開業に向け、市民の機運の高まりとともに、各般の取り組みも一層の進展を見せているが、一方で、諸対策を講じ、開業効果を最大限に高めることが必要である。青函共用走行区間においては、平成30年春から1日1往復の新幹線の高速走行を目指すこととする当面の方針が示されたが、新幹線が持つ高速性を最大限に発揮するためにも、抜本的な解決が図られるよう、青函共用走行問題の早期解決について、また、新函館駅の在来線駅舎の新幹線上下線とアクセス列車の乗りかえの利便性を考慮した整備など、新幹線利用者の利便性や快適性を確保するため、新函館・現函館駅間の鉄道アクセスの充実について、特段のお力添えを賜りますよう、お願いをいたしました。

これに対し、JR北海道からは、青函共用走行問題の早期解決については、新幹線と貨物列車の走行時間を区分することにより、平成30年の春に、まずは1日1本、1往復程度の高速走行の実現を目指すことで、現在、国土交通省において検討が進められているところであり、この検討が円滑に進むよう、引き続き協力していきたいと考えている。また、この青函共用走行問題の抜本的な対策に向けては、国、道への要請や国土交通省等への協力などにより、問題の早期解決が図られるよう、引き続き取り組んでいきたい。新駅の在来線駅舎の、新幹線上下線とアクセス列車の乗りかえの利便性を考慮した整備については、電化整備による電車の導入や、極力、同一平面上での乗りかえを目指すことで、利便性を確保したいと考えている。新駅・現駅間における利用者の利便性や快適性が確保された車両の導入については、市街地と新幹線駅をスムーズに結びつけるため、所要時間の短縮や使いやすさを考慮した電車の導入を考えている。また、新幹線からアクセス列車に乗りかえた際に、北海道らしさや函館らしさを感じてほしいとの要望もあることから、どのような工夫ができるか、現在、検討を進めているところであり、何らかの考え方がまとまった時点で、函館市や市議会とも意見交換をし、打ち合わせを進めていければと思っている。との御発言がございました。

以上で、要望活動の報告を終了いたします。

それでは、これより本日の調査に入ります。

まず、調査の進め方についてですが、本日は、委員会の調査項目一覧中、3ページになりますが、これまで調査に着手しておりませんでした開業に伴う観光振興にかかわりまして、新幹線開業に向けてのイベントについて及び現函館駅からの二次交通についてを除く各項目にかかわり、8月19日付で観光コンベンション部より北海道新幹線開業を見据えた観光振興の主な取り組み状況についての資料が提出されておりますので、理事者から資料の説明を受け、各委員に一度、お持ち帰りいただき、理事者の取り組み状況などを調査、研究していただき、委員間で協議を行いまして、最終的には、現状の取り組みの評価や今後の取り組みへの提言などについて、委員会の総意として取りまとめていきたいと考えておりますが、このような進め方でいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**委員長(出村 勝彦)** よろしいですか。それでは、そのように確認をさせていただきます。

なお、委員会の調査項目中、新幹線開業に向けてのイベントについて及び現函館駅からの二次交通についてにかかわりましては、今回の調査が終了した時点で、理事者の動向も踏まえまして、改めて、調査の進め方も含め、協議、調査をしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、理事者から説明をお願いいたします。

○**観光コンベンション部長(布谷 朗)** それでは、お手元の資料につきまして御説明申し上げます。

北海道新幹線開業を見据えた観光振興についてというタイトルでございますが、私どもといたしましては、函館観光の一大転機となる北海道新幹線の開業を見据え、開業効果を最大限に高めるための観光振興に向けた各般の取り組みを、官民がしっかりと連携した中で、積極的に推進しているところでございます。

主要施策として、大項目の1、誘致宣伝の充実から、資料の最後、5ページに記載しております大項目の8、新函館市観光基本計画の策定まで、施策の体系別に概要と最近の主な取り組み状況を記載しておりますが、最近の主な取り組み状況につきましては、おおむね平成22年度以降の取り組みを記載しております。また、今年度、これから着手する事業についても記載してございます。

それでは、主要施策の内容につきまして、各担当課長より順次、説明させていただきます。

○**観光コンベンション部ブランド推進課長(山崎 貴史)** それでは、私から大項目一番目、誘致宣伝の充実について御説明をさせていただきます。

まず(1)函館ブランドの確立についてでございますけれども、2006年から株式会社ブランド総合研究所が実施しております地域ブランド調査で、常に魅力度ランキングの上位を獲得している当市の高評価を実際の観光入込客数につなげるため、函館ブランドのイメージとなっております歴史、景観・街並み、食にスポットを当てた各種施策に取り組んでおります。

最近の主な取り組み状況として、以下の8点を記載してございます。

主なものとして、1点目、西部地区の歴史的建造物の歴史などを紹介した冊子「函館建物散歩」の作成。2点目、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに掲載されました観光スポットを紹介しました「HAKODATE Guide～函館の星をめぐる～」の小冊子の作成。1つ飛ばしまして4点目、北海道じゃらんなどの旅行雑誌や生活情報誌での特集記事によりますPR。5点目として、航空会社3社とのタイアップしての機内誌や公式サイトなどによるPR。6点目、香雪園の紅葉のライトアップやミニ

コンサートなどでの秋のイベント「はこだてMOMI-G」フェスタの実施。7点目、函館全体のイメージアップにつながるような「函館ロゴマーク」の作成。最後に、観光客の利便性を高めるため、食、景観・街並みを併載したマップの作成を予定しております。

続きまして、(2)として観光情報の提供についてでございますけれども、平成20年12月から開始した観光情報サイト「はこぶら」など、多様な媒体を活用しての効果的な情報発信に努めております。

最近の主な取り組み状況として、4点記載してございます。

1点目、増加する外国人観光客のため、「はこぶら」の他言語表記を11言語に拡大。フェイスブック、ツイッターの活用。あと、現在主流となっておりますスマートフォンに対応した専用サイトの作成。あと、函館観光をPRする動画「CM放送局」の実施。以上、4点を取り組んでおります。

続きまして、(3)プロモーションの推進でございます。

まずは日本国内におけるプロモーションでございますけれども、北海道新幹線開業に向け、北関東及び南東北からの誘客を積極的に図るため、集中的な函館キャンペーンを実施しておりますほか、国内観光客の誘致を強化のための各種施策として取り組んでおります。

最近の主な取り組み状況として、以下、13点記載してございますけれども、主なものを説明させていただきますけれども、1点目、新幹線沿線主要駅、人口の多い首都圏、道央圏での集中的な「函館キャンペーン」を実施しての北海道新幹線開業をPRしております。2点目として、仙台、盛岡など、東北地方の主要都市の小中学校への教育旅行誘致キャラバンの実施、いわゆる修学旅行誘致の各種施策を実施しております。5点目として、首都圏や北関東などと北海道新幹線新函館開業対策推進機構と連携してのプロモーション。6点目、JRA、日本中央競馬会と連携した観光キャンペーンや、国内最大の観光見本市での観光PR。1つ飛ばしまして、テレビの旅行番組とタイアップした観光客誘致事業。あと、JCBの会員を対象とした観光客誘致キャンペーン。あと、1つ飛ばしまして、NEXCO東日本と連携した道央道大沼公園IC開通に向けた観光プロモーション。あと、JR東日本と連携した冬季キャンペーンの実施。最後に、函館・名古屋線利用促進キャンペーン実施などに取り組んでおります。

続きまして、海外でのプロモーションでございますけれども、中国、韓国、台湾などヘトツセールスを実施してきましたけれども、新たな誘致先として、タイやシンガポールなど東南アジア方面へのプロモーションを実施してまいります。また、旅行形態が団体旅行型から個人型へシフトしていることや、北海道新幹線開業を契機にJRさんが発行するジャパンレールパスを利用した観光客の増加に対応のため、各地域で実施されます見本市や即売会などのイベントでのプロモーションを実施しております。

最近の主な取り組み状況として、以下、12点記載してございますけれども、2点目として、北海道観光振興機構が実施する香港、タイ、シンガポールなど、旅行博覧会への参画。あと、4点目、5点目にありますけれども、韓国及びシンガポール、それぞれの国から旅行エージェントやメディアを招聘しまして、函館観光を体験していただく視察旅行の実施。6点目、韓国、姉妹都市、高陽市で開催される「国際花博覧会」での観光プロモーション。7点目、8点目として、外国人観光客向けのフリーペーパーへの広告・記事を利用したPR。札幌で開催されます北海道観光ビジネスフォーラムへの参加。あと、横浜で開催されますトラベルマートへの参加をしております。3ページをお開き願います。あと、続きまして、国のビジットジャパン地方連携事業として、各国からの視察旅行や、テレビ番組、雑誌の取材の受

け入れなど、地元観光事業者との商談会の実施をしております。あと、観光協会や観光事業者などの民間と連携しました「海外観光客誘致促進協議会」でのプロモーションやファムトリップの受け入れなどの実施などに取り組んでおります。

以上、大項目1番、誘致宣伝の実施について御説明いたしました。

私からは以上でございます。

○観光コンベンション部観光振興課長（小笠原 聡） 引き続き私のほうから、大項目2、受入体制の充実及び大項目3、観光資源の充実のうち、(1) 新たな観光資源の創出まで御説明申し上げます。

最初に大項目2、受入体制の充実でございますが、北海道新幹線の開業を見据えまして、観光客の受入体制を強化するとともに、今後、増加が見込まれる外国人観光客が安心して函館観光を楽しめるような受け入れ環境を整備するための各種施策に取り組んでいるところでございまして、最近の主な取り組み状況といたしましては、平成23年に、函館市内21カ所で星をいただきましたミシュラン、こちらグリーンガイド・ジャポンに掲載されました観光施設等を案内する観光案内板の設置を、平成24年に市内18カ所設置したところでございます。続きまして、散策の途中で気軽に休憩ができるよう、「まちあるき休憩ベンチ」を今年度、設置する予定でございまして、市内に7基設置するところでございまして、次年度以降も整備を進めていきたいというふうに考えております。続きまして、外国人向け「函館便利手帳」、「まちあるきマップ」、「指さしメニュー」の作成でございますが、4言語に対応できるよう、国の事業を活用しながら、平成24年度に実施したところでございます。続きまして、函館観光の具体的な満足度や不満点などの現状を客観的に把握し、観光振興施策やプロモーションを戦略的に展開するため、今年度、来函観光客の満足度調査を実施いたします。また、外国人観光客に対する受け入れ体制の強化を図るため、今年度、通訳スキル向上セミナーを開催いたします。続きまして、東南アジアにおけるイスラム文化圏からの観光客の受け入れに向け、今年度、ハラル対応に関する研修会を行います。また、外国人向け「函館観光アクセスガイド」の作成をいたしました。これは平成22年度に実施したところでございます。4言語に対応させ、これも国の事業において活用させていただいたところでございます。引き続きまして、ゴールデンウィークやお盆の時期などの観光シーズンに、観光客の流動地点において、まちあるき観光窓口を開設しております。今年度は、ゴールデンウィークやGLAYのコンサート時、お盆、クリスマスファンタジー、この4つの時期に窓口を開設したいというふうに考えております。続きまして、外国人観光客対応講習会でございます。指さし会話講習会でございますが、これは平成21年から、現在引き続き開催しているところでございます。続きまして、平成22年度でございますが、元町観光駐車場壁面の改修工事及び函館山登山道車両電光案内板の改修工事を実施したところでございます。また、21年度から23年度におきましては、湯の川温泉街の観光街路灯の修復工事を実施したところでございます。また、昨年度には西部地区の観光街路灯の修復工事の実施もいたしたところでございます。

続きまして、大項目3、観光資源の充実でございますが、(1) 新たな観光資源の創出でございます。

市内のまちあるきルートをテーマ別に紹介した「函館まちあるきマップ」を活用いたしまして、体験型・滞在型観光の促進を図り、観光客のみならず、市民にもより深く函館の魅力を理解してもらうため、ガイド付のまちあるきを楽しむイベント「てくてくはこだて」を実施するなど、新たな観光資源創出に

取り組んでいるところでございまして、最近の主な取り組み状況といたしましては、平成21年度より順次コースづくりを進めてまいりましたが、「函館まちあるきマップ」の作成。現在、23コースまでできあがっているところでございます。続きまして、これは平成22年度より進めておりますが、「てくてくはこだて」を開催してございまして、今まで延べ、3年間で約1,500名の参加者がいるところでございます。続きまして、公共交通と観光施設等を連携させた「はこだてスペシャルチケット」の作成でございまして、こちらは2年間の実証実験を経まして、平成22年度より観光協会において販売いたしているところでございます。4ページ目をお開き願います。4ページ目の一番上ですが、平成23年度に実施いたしましたブライダル前撮り旅行の受け入れに向けた環境整備の実施でございまして、これに関しましては、平成23年度、国の補助を活用いたしまして、香港市場における前撮りの文化を利用して函館に観光客を呼び込むという部分で展開してきましたが、平成24年度からは市単独で行っており、今年度からは民間で協議会を設立し、ブライダル前撮り市場の獲得に向けて進んでいるところでございます。最後になりますが、ヘルスツーリズムの受け入れに向けた環境整備の実施でございまして、平成24年度に、日本航空、いわゆるJALさんの健保組合と連携いたしまして、健診ツアーを実施したところでございます。

私のほうからは以上でございまして。

○観光コンベンション部ブランド推進課長（山崎 貴史） 引き続きまして、(2) イベントの充実について御説明させていただきます。

港まつりやクリスマスファンタジーなど、既存のイベントを継続開催しまして、華やかさ、それと賑わいの創出のほか、冬季のイベントの充実を図るための取り組みを進めております。

最近の主な取り組み状況として、下記に5点記載しております。

「函館港まつり」と「青森ねぶた祭」の祭り交流、1点目。2点目、はこだて冬のイベントにおける参加型イベント「光の小径」を実施しております。3点目として、昨年は市制施行90周年記念事業として「函館港まつりへのディズニーパレードの招へい」を行いました。4点目、本年でございまして、青森市以外では初めてで、最初で最後でありました「青森ねぶたの海上運行」を実施いたしました。最後に、冬季の観光客誘致のため、冬季のイベントの充実を図るため、いろいろ検討を行っております。

以上でございまして。

○観光コンベンション部観光振興課長（小笠原 聡） 引き続きまして私のほうから、大項目4、ホスピタリティの向上について御説明申し上げます。

観光関連の事業に従事する関係者のホスピタリティのさらなる向上を図ることはもとより、市民の観光客をもてなすホスピタリティ意識の醸成をさらに図るとともに、市民総ガイド化に向けた取り組みを進めているところでございます。

最近の主な取り組み状況といたしましては、平成22年度よりまちあるきガイドセミナーの育成を実施しております。これに関しましては、入門、初級、中級編というふうに分けて、毎年、市民のうち、ガイドを目指す方が30名くらい受講した中で、今まで100名近い人員が育成されているという内容でございまして。2つ目のマルですが、平成24年度に実施いたしました観光ホスピタリティ講演会の開催でございまして。まちあるき観光に力を入れております弘前市より、まちあるき運営団体の代表者をお招きし、講演会を開催いたしました。110名ほどの参加者があったところでございまして。続いて、外国人観光

客への接客を含むおもてなしセミナーの開催でございますが、これは継続してこれまでずっと進めてきております。今年度以降も開催する予定でございます。最後に、外国人観光客接客対応講習会の開催でございます。これも、今まで継続して進めてきたところでございまして、今後も講習会を開催していきたいというふうに考えております。

私のほうからは以上でございます。

○観光コンベンション部コンベンション推進課長（竹崎 太人） 私からは、大項目5番目、コンベンションの誘致につきまして御説明を申し上げます。

コンベンションの誘致につきましては、北海道コンベンション誘致推進協議会や函館国際観光コンベンション協会などの関係団体と連携いたしまして、平成21年度に創設いたしましたコンベンション開催補助金制度などのツールを活用いたしまして、地域への経済効果が非常に高い各種大会、それから学会などのほか、昨年開催いたしました日韓観光振興協議会のような国際会議の開催に向けた誘致活動や開催支援を行ってきたところでございます。また、平成27年度に予定されております函館アリーナの開設と、北海道新幹線の開業に向けまして、これまで規模的な面から当市での開催が非常に困難であった参加人数2,000人以上規模の大規模コンベンションをターゲットにいたしまして、函館アリーナや北海道新幹線の情報を掲載いたしましたパンフレットを作成するなど、函館でのコンベンション開催に目を向けていただけるような、積極的な誘致活動に取り組んでまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○観光コンベンション部観光振興課長（小笠原 聡） 引き続き、6、広域観光の充実について、私のほうから御説明申し上げます。

経済効果が高い滞在型観光の実現に向けまして、道南地域や青森圏域を中心とした東北地方などとの連携を深めながら、北海道新幹線の開業をPRする食と観光をテーマにした広域連携イベントの開催や、函館発着の広域観光メニューの造成による着地型観光の推進など、広域観光の充実を図るための各般の取り組みを積極的に進めてきたところでございます。

最近の主な取り組み状況といたしましては、本年3月に青森、弘前、八戸、函館で構成し設立いたしました「青函圏観光都市会議」において、観光ポスターの作成や首都圏の修学旅行誘致など、各種事業の実施を進めているところでございます。2つ目でございますが、平成22年に道南18市町で構成されました「みなみ北海道観光推進協議会」において、道南地域が一体となった観光プロモーションやスタンプラリー、ドライブガイドの発行など、各種事業を実施してきているところでございます。また、昭和50年度より「青函観光宣伝協議会」を設立いたしまして、青森と連携しながら、共同の観光プロモーションなどの各種事業を実施してきたところでございます。平成23年度からは札幌、函館、旭川、帯広、釧路、北見で構成されます「道内中核都市観光連携協議会」を設立いたしまして、連携しながらスタンプラリーや商談会など、各種事業の実施を進めてきたところでございます。また、昨年度、函館、北斗、七飯、鹿部、森、民間においてはJR北海道、函館バス、函館市企業局交通部、津軽海峡フェリーで構成いたしました「北海道新幹線新駅沿線協議会」におきまして、共通フリー乗車券であります「はこだて旅するパスポート&フリーパス」を発行いたしまして、各種周遊ができるような仕組みづくりに取り組んでいるところでございます。また、平成23年度より新幹線沿線主要都市であります仙台やさいたま、

こちらは大宮でございますが、道南地域、また東北と連携をいたしまして、「函館・みなみ北海道グルメパーク」を開催してきております。函館の魅力である食と観光を連携した形で継続開催してきているところでございます。また、札幌市においては、東日本大震災復興応援事業ということで、「函館・東北チャリティープロモーション」を開催しております。こちら平成23年度より継続して、今年度も6月に開催を終えたところでございます。引き続き、函館駅前・大門地区における「はこだてグルメサーカス」の開催でございますが、昨年は90周年事業ということで開催させていただきましたが、今年度は「グルメサーカス2013」ということで、9月7日、8日の2日間で駅前や大門の活性化を目標に開催準備を進めているところでございます。また、みなみ北海道と青森県の体験観光メニューを紹介した冊子ということで、「函館・みなみ北海道 体験の旅案内」を、こちらは22年度に作成したところでございます。翌23年度には、みなみ北海道と青森県の広域観光ルートを紹介した冊子といたしまして、「G o o - R o u t e H a k o d a t e」を作成したところでございます。

私からは以上でございます。

○**観光コンベンション部コンベンション推進課長（竹崎 太人）** 大項目の7番目、函館フィルムコミッション事業の実施について御説明を申し上げます。

函館フィルムコミッション事業の実施につきましては、映画やドラマ、CMなどで函館が取り上げられることによりまして、地域の観光資源のPR、それからイメージアップに非常に高い効果が期待できますことから、映画やドラマなどのロケ支援や、メディア関係者へのプロモーション等の実施によりまして、函館へのロケの誘致に積極的に取り組んでいるところでございます。今後におきましても、こうしたロケ支援やプロモーションの場において、機会を捉まえて、北海道新幹線の開業について引き続きPRしてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○**観光コンベンション部観光振興課長（小笠原 聡）** 8番、新函館市観光基本計画の策定について、私のほうから御説明申し上げます。

平成25年度をもって現函館市観光基本計画における計画期間が終了いたしますことから、昨年度中に実施いたしました現状分析等に関する基礎調査の結果を踏まえまして、今年度、新たな函館市観光基本計画を策定するべく作業を進めているところでございます。

新計画におきましては、新計画策定委員会において現在作業を進めているところでございますが、新幹線時代の到来など、函館観光を取り巻く環境の変化に適切に対応し、観光による経済効果を最大限に高めるための計画となるよう、現在、内容の検討を進めているところでございます。なお、本計画の素案につきましては、所管の経済建設常任委員会において、今後、お示ししてまいりたいというふうに考えております。

私のほうからは以上でございます。

○**観光コンベンション部長（布谷 朗）** 以上、主要施策を御説明申し上げましたが、今後とも、新幹線時代に対応した観光振興策に、民間と密接に連携を図ることはもとより、市民の皆様とも協働しながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○委員長（出村 勝彦） お聞きのとおり、資料の説明がございました。

ここで理事者は御退室いただいて、協議したいと思います。

（企画部・観光コンベンション部退室）

○委員長（出村 勝彦） それでは、ただいまの理事者からの説明を踏まえ、次回の委員会におきましては、理事者の現状の取り組みに対する疑問点のほか、御意見や御要望も含め、理事者に確認したい事項について、整理、確認していきたいと思います。

つきましては、各委員において、理事者に確認したい事項がありましたら、9月定例会中の常任委員会の開催予定日であります9月13日までに事務局に提出していただきたいと思いますが、そのような計らいでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（出村 勝彦） いいですね。

○福島 恭二委員 今じゃないんでしょ。今じゃなくて。

○委員長（出村 勝彦） はい。

それでは、そのように確認をさせていただきます。

提出様式につきましては、後ほど事務局よりお渡しさせていただきます。

なお、各委員にお願いですが、観光振興にかかわりましては、基本的に経済建設常任委員会の所管であり、当委員会におきましては、あくまでも新幹線開業に伴う観光振興ということに主眼をおいて調査を進めたいと考えておりますので、御配慮のほど、よろしく願いいたします。

本件にかかわりまして、現時点で各委員から何か御発言ございますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（出村 勝彦） 特段ないようですので、それでは、各委員での検討方、よろしく願いいたします。

以上で本日の調査を終了いたします。

その他、最後に私から1点、閉会中継続調査の本会議での報告については、これまでの協議の内容を踏まえて作成したいと思いますが、その内容につきましては委員長に一任願いたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（出村 勝彦） 異議がありませんので、そのように決定いたしました。

他に各委員から何かありますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（出村 勝彦） 特段、現時点ではないようですので、それでは、本日はこれを持ちまして散会いたします。以上で終わります。

御苦労さまです。

午後1時38分散会